

わかばやし若者まちづくりプロジェクト支援事業 活動発表会の様子

- 日 時 令和8年3月24日（火） 13時30分から15時20分まで
- 会 場 東北学院大学 五橋キャンパス 未来の扉センター オープンスペース
- 発表団体 ・TGU 情報リテラシー ・てらいく ・防災デイキャンプ
・東北学院大学菅原真枝ゼミ

各団体からの配付資料とスライドによる発表後に行われた会場参加者との意見交換の様子です。本市ホームページ掲載の「活動発表資料」併せてご覧ください。

(1) TGU 情報リテラシー教室（以下、TGU）

会場参加者）参加者のリピーター率はどれくらいですか。

TGU）25%くらい。繰り返し来る方は新しいことを学ぶというより学び直しの方が多い。

会場参加者）皆さん熱心に取り組まれています。大変な活動だったと思いますが、団体の運営体制はどのようなものですか。例えば、受付をお一人でされていらっしゃるということでしたが、分担すれば負担軽減になるのではないのでしょうか。また、今後、もっと専門性の高いところと町内会をつなぐということでしたが、町内会と関わっていくとなると、町内会からすれば学生が毎年変わるので、学生団体としてはフォローしきれない部分もあると思います。（所属の情報）学部に相談してみることも考えてみてはいかがでしょうか。

TGU）団体には92名が所属していて、事業毎に4つのチームに分けて、広報とかカリキュラム作成とかしていました。教室への申込受付については、不特性多数の方が見るところにメンバーの連絡先を載せるとなると、事業終了後なども危険性があるので、メンバーに被害にあってほしくないということから、今回は急遽であったので私一人の連絡先を掲載し、申込受付については一人で行うこととしました。今後は（このような体制を）見直すということでも団体用の電話を持つとか工夫したいです。

会場参加者）私自身もNPOの運営をしているが、電話は通信料も結構かかるのでプリペイドカードの利用など情報提供もできればと思います。

会場参加者）情報弱者の高齢者を対象にビジネスではなく無料でのボランティアにより基本的なところから教えており、また、高齢者が学生から教えられるということで世代間交流にもなっています。ただ、一切利用者から参加料をいただくことなく実施しているので助成金だけでは難しいのではないのでしょうか。来年度以降は、どのようにして予算を捻出していこうとしていますか。

TGU）今回の予算については自己資金はメンバーから集めず、市民センターや児童館まつりに飲食店を出店などを行い、その売り上げを充てました。次年度は青葉区などから委託事業を受けるので、その資金を使おうと思っています。

会場参加者）情報弱者の孤立予防にもなっており、大切なことで、高齢者が情報を取り、周りの方々に連絡を取れるようになると安全に暮らせるようになるので大事にしていきたいです。

今後の展望に町内会のフォローアップ体制の構築とあり、継続的なデジタル活用支援とあるが、町内会からの要望とかあれば教えていただきたいです。また、(地域での)担い手の育成についてどのように考えていますか。

TGU) 町内会からいくつかの声があり応えていきたいです。公式ラインって何だとか、デジタル化をしたいとか、HPを作りたいので手伝ってほしいなど数件いただいています。

会場参加者) 担い手の育成についてはどうですか。

TGU) 今は、私たちがスマホ教室を開催していますが、私たちがいないと教室を開催できないということではなく、参加者が理解して、地域に持ち帰り、私たちがいなくても参加した方々が講師となり点々と開催していくようになるとういことです。

会場参加者) 少しでも周りに教えて広げていくということになればいいです。

(2) てらいく

会場参加者) 今後の課題は何ですか。地域祭の参加者 200 名の属性はどういったところですか。開催会場のキャパシティとか考えると来場者をもっと受け入れられるのではないのでしょうか。一方で、今のままでは事業の継続が難しいと考えているようですが。

てらいく) 来場者の属性は、これまでのてらいくが児童館での関わってきたこどもたちの家族連れ、てらいくの取材先の商店街の方々の皆さま。

200 名の規模をより大きくということですが、継続性のこともつながりますが、現段階で準備も結構ぎりぎり、期間も短く、予算も抑えつつ、中身についても一つ一つのコンテンツが一つのイベントになるくらい濃いもので学生に負荷がかかることが分かりました。このことが今回の収穫でした。てらいくの人数は 60 名程度ではありますが、来年度は、実際動ける参加メンバーの規模で続けてやっていきたいと思ひます。がんばりを楽しいがんばりに変えていく、てらいくのいいところは楽しくやっていくということなので、がんばりで力尽きてしまわないように次年度に向けて仕組みをつくり、属人的にならぬように継続してやっていけるように代表と考えています。地域との架け橋になっていきたいと思ひっており、次回地域祭をやるのかは、規模も含めて、次のてらいくのメンバーに任せていく予定です。地域祭の形でなくても何等かの形で地域とつながるようにやっていきたいです。

会場参加者) 企画など労力がかかったのではないかと思ひます。地域の魅力を再発見する機会になったということですが、どういう点ですか。

てらいく) 地域の魅力の再発見については、発表という点からいうと商店街発展ブースを設けて、これまで知られていなかったところをてらいくを通じてより知ってもらえたこと。企画の点では、自身の蔵王町出身が原体験となっており、地域はつながり続けなければいけないと思ひっており、てらいくも友だちとつながり孤立をなくす、それを地域に広げるといふことで行った。(地域の魅力は) 学生が地域に入って、挑戦する人を応援してくれる、何かする人を応援するまち、居場所ということが再発見となっています。

会場参加者) 根本的なところが深まっていっていると思ひます。

会場参加者) てらいくさんは連坊、荒町でがんばっている団体ということは承知してました。地域祭は会場を同じくする市民センターの荒町フェスティバルの前日の開催であったが、大規模なイベントが重なる中でてらいくさんならではの積み上げていた強みは

どんなところでしたか。

てらいく) 開催時期については、前日のイベントと内容が重複していると荒町市民センター館長から言われていました。その中で、てらいくができることは、てらいくの活動として3年間行ってきた書道の体験をこどもたちに提供してあげられることや、荒町フェスティバルと同じ内容であっても学生ならではのエネルギーであるところや、30年間続いてきた安定した市民センターのイベントとは違う少しハラハラしたところ。また、敢えて外部の第三者が実施することで架け橋となるところでした。

てらいく代表) 地域で関わっていただいた方に御礼申し上げます。発表資料にてらいくのブランド化、地域の活性化など記してあるが、いったい何様だと思つるところがあつて、自分は設立から関わっていますが、地域の力をお借りして混ぜてもらっているのに慢心がすぎると思っているところです。地域祭開催にあたっては、かなり、地域の方には直前でご迷惑をかけたこともありました。また、来年再スタートを切っていきたいと思います。メンバーと今後のてらいくについて考えていきたいので、今後ともお力添えよろしくお願いします。

(3) 防災デイキャンプ (以下、防災)

会場参加者) 関わった学生の人数は。広報の強化ではどんなことをしたいですか。

防災) 防災デイキャンプから14名と、てらいくから20名の計30以上の人数が関わっています。広報は、今回はチラシを連坊小路小学校や地域で回覧してもらいました。インスタもあるが、チラシを手にとってもらう方がよいので配付の方法を取っています。よつて、チラシの見易さや配付方法を改善していくのがベストかと思つます。

会場参加者) ワークショップについては、好評な状況が写真からもうかがえます。ペットボトルランタンは初めて見ました。仙台市に限らず、さまざまなか所でも防災訓練していると思うので他の催しへの出展も考えて見てください。

会場参加者) 防災は大きなテーマで、取り組んでいただいてよかったと思つています。始めるきっかけについて、地域の方々の要望ということであつたが、どういった方々ですか。

防災) 地域の高架下での取組を知っていたので、最初、高架下で実施しようと思つていましたが、今回はそこでの開催は難しく、学校ですることになり、こどもたちが楽しめるイベントをしようということになりました。最終的には高架下で行いたいです。

会場参加者) 学校との連携は。

防災) 夏前から教頭先生と連携をとらせていただいて、広報において教室にお知らせを貼ってもらつたり、会場借用をお願いしてご協力いただきました。

会場参加者) 私も災害の研究をしているので、こどもたちの意識がこのイベントでどう変化したか、アンケートなどで把握しているようであれば教えてください。

防災) ○×クイズをしてみつて、東日本大震災を経験していないこどもたちが思つたより防災のことを知っていると思つました。今回のイベントでこどもたちの何が変わったかというつと、防災頭巾、防災用簡易トイレなど防災グッズなど物への反応があり、ペットボトルづくり、借り物競争にしても実際に手に取つてわかるというところがこどもたちにはささつたのではないかと思つています。

会場参加者) 今年2月頃に連坊小学校のこども10人と対話する機会がありましたが、「これから

やってみたいことありますか」と訊いてみたら、こどもから「防災訓練に参加してみたい」という声があり不思議に思いましたが、防災デイキャンプの活動のおかげかとも思いました。地域の防災訓練に参加してもらって、そこでワークショップも一つのコーナーでやってもよいと思います。皆さんと一緒にやっていきたいです。

(4) 東北学院大学菅原真枝ゼミ（以下、菅原ゼミ）

会場参加者）ワークショップ開催の時に多世代の方々が集まったが、広報やお声がけはどのようにしたのですか。

菅原ゼミ）基本的には、私たちが参加したイベント、ヒアリングで関わった方が広げてくれたことで、10代から高齢者まで集まり、地域をよくしていきたいとお話してくれることになりました。

会場参加者）関わった方々から広がってくれていい形で集まってくれてよかったです。インタビューの時、いろんな方々がいたと思うが、たいへんだったとか乗り越えたことは。

菅原ゼミ）自分と同年代で同じ気持ちを持って六郷を盛り上げていこうとしている方にインタビューができ、自分たちだけでなく活動していることを知ることができました。インタビューにあたり、あまり地域のことを調べずにうかがったメンバーからは、六郷のことをもっと知ってほしいという思いを地域の方から伝えられたということをかがっており、どう関わっていけるかが今後の課題かと思いました。

会場参加者）継続していけるとよいと思ってきていた。

会場参加者）私もゼミにより地域で活動しているが、参考にさせていただきたい点がたくさんあった。ワークショップをスタートアップ（スライドの16頁）の企画としているがこの先の展開を教えていただきたいです。

菅原ゼミ）スタートアップと記したのは、この事業を来年度以降も継続していきたいということから、第一回の活動として行ったことと、地域のニーズや課題を調査したいという思いはあったが、最初から地域課題だというのは重いので、まずは楽しんで皆さんと六郷のいいところを楽しんで話していきながら、関係をつくってから皆さんと課題を発見していくというようにレベルアップするような形でワークショップをしていきたいという思いからです。

てらいく）予算の内訳を教えてください。

菅原ゼミ）主に、交通費、ワークショップへの必要経費として小瓶やブルーシートや地域住民の方々への茶菓子など。

会場参加者）六郷市民センターも一部関わっていたので、今日全体像が見えたのでよかったです。六郷は課題を抱えながらもとても魅力的な地域なので学生の皆さんが関わってくれらると嬉しいので、継続してやってくれるということなので、ぜひ一緒にやっていきましょう。

■ 全体講評を会場に参加した当事業の選定委員からいただきました。

・それぞれ4団体皆さんの取り組みはいずれも魅力的で、地域の課題を真摯に向き合って具体的な実践につなげていることが印象的でした。それぞれの団体への講評です。

・TGU情報リテラシー教室では、デジタル格差は現代の大きな課題である中、高齢の方々に寄り添い、社会的に意義のある活動である。丁寧な体制が組まれていた。

・てらいくは、商店街や地域の方々など地域のいろんなプレーヤーとつながっていて、イベントに留まらず、一過性のものではなく信頼関係、地域の愛着を築いていて、祭りは200名規模の参加もあるということで地域への波及もある。

・防災デイキャンプは、こどもたちが楽しみながら参加できる工夫がなされ地域のニーズを的確に捉えた企画で、体験型が最初にくるというプログラムは今後の防災意識の醸成の観点からも重要なものであった。

・菅原ゼミのプロジェクトは、ゼミの運営の点からも参考になる。聞き取りを基盤として、いろんな方々に訊き、そこからワークショップへと収斂させるやり方も魅力的だと思った。今後の展開の予定もあるということで、ゼミ生は入れ替わるので、運営の難しいところもあると思うが、ゼミとして地域、社会へ持続的な関係を築いてほしい。

・ヒアリング調査に留まらず、関係者とのお話を通じて、課題を的確に発見し、必要な関係者へアプローチし、実践し、振り返りもするというプロセスを学生が主体性を持って行っている点が全団体に共通していて素晴らしい。

・継続性、広報、運営の体制づくりの課題は共通した課題で、学生の団体だけでなく、社会的な活動を行っている団体も避けては通れないテーマ。教員などいろんな方々のアドバイスをもらいながら考えてほしい。

・これらの取り組みは地域社会へインパクトがあり、学生自身にとっては社会と関わりながら学ぶという貴重な経験になり、この成果を次の活動へつなげ、それぞれの団体の強みをさらに発展させて、今後の展開に期待する。

■ 活動発表会の様子 五橋キャンパス未来の扉センターオープンスペース



多くのご意見、応援メッセージをいただきましてありがとうございます